

## <今日の説教のポイント 使徒言行録2章1～13節>

この驚きの出来事の報告で、ルカは何を伝えようとしたのか？！

### 1 本当に驚くべきは、「神様がこれを起こされた」ということ。

聖書には信じ難い出来事を神様が起こされた記事が幾つも出て来ます。そういう箇所をどう考えたらいいのでしょうか？ 私はこう思っています、「もし本当に神様が起こされたなら、それは起こっても不思議ではない」。今日の箇所でこれを記したルカが一番伝えたいと思っていることは、この「神様がこれを起こされた」ということなのです。では、なぜそう言えるのかを次に考えます。

### 2 注目点 その1 「風」と「舌」に振り回されないこと。

日本語に翻訳された聖書のこの箇所を読むと、起こった現象の異常さに目が奪われます。しかし、原文のギリシャ語で読みますと、「舌」(3)と「言葉」(4)が同じ語（グローサ）、「風」(2)と「霊」(4)も同じ語（プネオ）の変化形であることが分かります。すると、現象の異様さより、ルカがこの記事で何を一番伝えたかったかが見えて来ます。それは1で述べたこと、「神様がこれを起こされた」ということです。

### 3 注目点 その2 福音が、各国語で、使徒によって語られたこと。

今日の箇所を丁寧に読むと、使徒たちが突然各国語で話し出したというだけでなく、「神の偉大な業」(11)を各国語で話し出したことこそが大事なのだということが分ります。それは、この後（14節以下）ペトロが説教で語る内容、すなわち、神様が御子イエスによってなされた救いの業のことです。私たちは、むしろ、不思議に見える現象の中に込められた、神様のこの恵みに満ちた内容にこそ、驚くべきなのです！

### 4 自分で解釈して留まるか？ 福音を受け入れて歩み出すか？

これを「新しいぶどう酒に酔っているのだ」(13)と自分流に解釈して神様の恵みの業を受け入れない人がいる一方、示された神様を受け入れて、その神様の御言葉に聞いて生き出す人たちが生まれ出したのです。これが使徒言行録2章が示す出来事です。神様はこの人たちが共に主を礼拝しに集まり共に主を信じて生きる共同体（教会！）を設けられ、その人たちが（教会員）が世界中に福音を宣べ伝えていくことをお望みになったのです！ まさに、教会の揺るがざる根拠と使命ここにあり！ です。